

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 3 年 7 月 11 日 報告者：長嶋 和子

行事種別	研究会	行事番号	210000283
開催日	令和 3 年 6 月 12 日 (土) ~ 25 日 (金)		
時間	開始	00 時 00 分	終了 23 時 59 分
場所	オンデマンド配信 (Web 録画)		
テーマ	過去の学会発表から学ぼう、炎症性腸疾患のバイオマーカーを知ろう		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司会	藤田医科大学病院 長嶋 和子		
講師	<p>1.潰瘍性大腸炎治療薬メサラジンによるブドウ糖試験紙異常発色機序の検討 公立西知多総合病院 服部 聡</p> <p>2.尿沈渣検査所見が膀胱破裂疑いを導いた一例 公立西知多総合病院 加藤節子</p> <p>3.尿沈渣中に小集塊状の出現様式を示した IgA-κ型多発性骨髄腫の一例 藤田医科大学病院 長嶋和子</p> <p>4.関節液検査における固定方法とセルブロック作成の有用性について JA 愛知厚生連稲沢厚生病院 蜂須賀大輔</p> <p>5.腎炎を伴う IgA 血管炎の 1 症例～腎生検後に尿沈渣所見が悪化した 1 例～ 社会医療法人宏潤会大同病院 竹本明里</p> <p>6.尿沈渣中にコンタミネーションが原因でダニ、原虫類を認めた 2 症例 藤田医科大学病院 蛭川澄玲</p> <p>7.尿中有形成分分析装置 UF-5000 を用いた尿路感染症スクリーニングの有用性評価 小牧市民病院 前田佳成</p> <p>8.消化管疾患における便中マーカーの役割 栄研化学株式会社 志賀常雄</p>		

<p>内容</p>	<p>前半は 2020 年度に日臨技、愛臨技で学会発表された演題を再聴講して貰う企画でした。7 講演のうち 4 講演（講演①②③⑤⑥）が日常業務において遭遇した事象についての発表でした。自施設において遭遇することが起こった場合に、今回の研究会を思い出し臨床側に報告できるようにしたいという感想をいただき、症例報告を通して多くの施設の人と情報を共有できたと感じました。また、臨床や他部門との連携の大切さを感じたという感想もいただきました。2 講演（講演④⑦）は研究的内容で、参加者の方からの質問は講演④に偏っていました。学会時には質疑応答がなかったので、研究会を通して疑問が解消できたのであれば開催した意義を感じます。</p> <p>後半の便中マーカー「カルプロテクチン」は近年保険収載された項目で、炎症性腸疾患のマーカーです。炎症性腸疾患の罹患率・有病率は年々増加傾向で、自施設で測定している病院はまだ少数と思われますが今後活用が大いに期待される炎症マーカーです。便検査の勉強会・講演会は少なく、時代に先駆けての講演で、多くの参加者に興味を持って聴講していただけたと思いますが、アンケート調査時に行った理解度テストにおける正解率が悪かったことが若干気になります。正解答は研究班 HP に掲載予定であり、メインテーマのカルプロテクチンは回答できているので視聴自体には問題はなかったと思いますが、現地開催に比し参加者の方がどのような環境で視聴されているかが分からない点などは運営サイドとしてはやはり不安な面があります。</p> <p>しかしその一方で、聞き逃しを再度確認できる点などはオンデマンドのメリットであり、感想にもこの形式での配信を望む声がありました。講演の内容に合わせ配信方法を考えるなどの工夫が必要であると感じます。</p>
<p>参加者</p>	<p>総数：114 名（会員 84 名、県外会員 29 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）</p>
<p>共催、後援など</p>	<p>なし</p>

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 3 年 7 月 18 日 報告者：平田 基裕

行事種別	基礎講座	行事番号	210001633	
開催日	令和 3 年 7 月 10 日 (日)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	WEB ライブ配信			
テーマ	日当直で困らない尿沈渣の基礎 (血球・上皮編)			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	医療法人青山病院 平田基裕 技師			
講師	1. 赤血球・白血球の見方 名古屋済会病院 杉原 幸子 2. 上皮細胞の見方 JA 愛知厚生連稲沢厚生病院 蜂須賀大輔 3. ケーススタディ 藤田医科大学病院 長嶋 和子			
内容	<p>1. 赤血球・白血球の見方</p> <p>赤血球について一般的な大きさ、形、色の説明があり、浸透圧による変化とその仕組みについての解説があった。尿沈渣中の赤血球は、糸球体型赤血球と非糸球体型赤血球に分けられるが、糸球体型赤血球が変形する仕組みを図を用いて詳細に解説してもらった。</p> <p>糸球体から出血した赤血球は糸球体を通過する際に物理的的刺激を受け変形し、多くは元の形態に戻るが、一部は壊れて溶血してしまう。壊れなかった赤血球は近位尿細管からヘンレの係蹄、遠位尿細管、集合管を通る際の浸透圧の変化により様々な形に変形すると解説があった。また形態についての多くの写真を示し分かり易く解説してもらった。</p> <p>2. 上皮細胞の見方</p> <p>総論として腎尿路系の解剖とそれぞれの部位に存在する細胞の解説があり、その後各論として尿細管上皮、尿路上皮、円柱上皮、扁平上皮と尿路に沿って解説してもらった。</p> <p>それぞれの細胞は存在した部位により形態が違うが、それらについても写真や図を用いて詳細に解説していただいた。変性細胞についても形態的特徴、細胞の由来、臨床的意義について解説していただいた。</p> <p>異形細胞について、異形細胞出現時の対応、一般検査室として確認作業や報告など、行うべきことについて教えていただいた。また細胞由来別に症例を用いて、詳細に解説していただいた。</p> <p>3. ケーススタディ</p> <p>はじめに本日解説された成分について、○×のクイズ形式で確認を行った。その際に、前の講義の演者とは違った切り口で解説していただき、参加者からはいろいろな考え方</p>			

	<p>を聞いて良い勉強になったと思う。</p> <p>ケーススタディではBK ウイルス腎症と急性腎症が示され、それぞれ日常検査では見落としてしまうような細胞や、細胞の出現様式について解説があった。どちらの症例も尿沈渣で見落としてしまうと発見が遅れる可能性があり、患者情報や他の検査データを見ながら疾患について考え、重要な成分を見落とさないように注意するといったことを教えていただいた。</p> <p>どの講義も大変有意義であり、参加者の今後の仕事に役立つと思われました。</p>
参加者	総数：参加人数 89 名（愛臨技会員 65 名、他県会員 24 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）
共催、後援など	なし

2019.12.7

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 3 年 8 月 24 日 報告者：池崎 幸司

行事種別	基礎講座	行事番号	210002993	
開催日	令和 3 年 8 月 14 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	WEB ライブ配信			
テーマ	日当直で困らない尿沈渣の基礎 (円柱・結晶編)			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	国家公務員共済組合連合会 名城病院		池崎幸司 技師	
講師	1. 円柱の見方	社会医療法人明陽会 成田記念病院 望月里恵		
	2. 結晶の見方	特定医療法人衆済会 増子記念病院 平田弘美		
	3. ケーススタディ	藤田医科大学 星 雅人		
内容	<p>1. 円柱の見方</p> <p>円柱について形成条件、出現の意味、意義についての説明があり、尿細管腔の閉鎖時間と腎臓の障害度合いについての解説があった。円柱は基質成分のみの硝子円柱と成分円柱に分けられるが、硝子円柱では円柱の類似物との判別方法としてフローチャートをもちいた症例解説をしてもらった。成分円柱では各円柱の臨床的意義と主な疾患について解説があり、それぞれ写真からその特徴、背景などの判別に繋がる注意点を教わった。終盤は問題形式で、多くの写真を示し分かり易く解説してもらった。</p> <p>2. 結晶の見方</p> <p>通常結晶について、各種の色調,形状,pH,性状,臨床的意義,出現原因について解説があった。異常結晶類は臨床的意義が高いため、各種結晶の解説以外に確認方法について偏光顕微鏡写真や確認試験について教わった。塩類の析出についてはその溶解方法を解説してもらった。その他の結晶として、ヘモジデリン顆粒はその証明にベルリンブルー染色や患者情報の必要性について、マルベリー小体はファブリー病の病態,分類,治療法についても詳しく解説してもらった。終盤は問題形式で、多くの写真を示し分かり易く解説してもらった。</p> <p>3. ケーススタディ</p> <p>チャットを利用した参加型のケーススタディで、シュウ酸カルシウム結晶の尿中に出現する過程、その観察の着目点(肥大化・凝集)について説明があった。シュウ酸カルシウムは尿路結石の成分であることから、結石についてその形成過程、形成場所、再発率、治療法まで詳しく解説してもらった。また、診療ガイドラインから同じ結晶でも水和物の</p>			

	<p>違いで治療戦略が変わる可能性があるという考え方を教えてもらった。</p> <p>通常結晶でも食事によるものと病気が疑われるものがあり、その観察での注意点、考え方が聞けて、臨床への結果報告に追加でコメントが出来るような良い勉強になったと思う。</p> <p>どの講義も大変有意義であり、参加者の今後の仕事に役立つと思われました。</p>
参加者	総数：参加人数 127 名（愛臨技会員 76 名、他県会員 51 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）
共催、後援など	なし

2019.12.7

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 3年 12月 17日 報告者：長嶋 和子

行事種別	講演会	行事番号	210010329	
開催日	令和 3年 12月 11日 (土)			
時間	開始	15時00分	終了	17時00分
場所	ライブ配信			
テーマ	腎炎とは？そして驚きの新たなる治療法			
生涯教育履修点数	専門教科 20点			
司会	藤田医科大学病院 長嶋 和子			
講師	<p>1.これを聞けば腎炎が分かる！～検査技師が教える腎炎の基本～ 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 野村 勇介</p> <p>2.腎炎における幹細胞移植治療 名古屋大学大学院医学系研究科 病態内科学講座腎臓内科学 丸山 彰一 教授</p>			
内容	<p>腎臓病の中で腎炎は最も多い疾患のひとつです。しかしその分類は難解で、しっかりと理解している人は少ないと感じていました。そのため腎炎について一度は研究会を開催したいと考え、本研究会を開催しました。</p> <p>講演 1.では腎炎についての基本講演を行いました。腎炎の分類が難解と言われる所以をまず説明し、その後「病変部」「原因」「経過」に分け、分類解説を行いました。腎炎の最終的診断には組織診断が欠かせませんが、一般検査に携わる技師にはあまり馴染みがないため、腎生検、組織診断についても用語解説を含め基本から解説を行いました。アンケート結果では「腎炎を理解する上で丁寧で分かりやすかった」「考え方が分かった」と、参加者の方の理解を深めることができたと思われ、難しい分野に切り込んだ甲斐を感じました。</p> <p>講演 2.では脂肪由来幹細胞を使用した最新の腎炎治療について講演を行いました。検査技師は通常検査結果を出すことに注力しており、治療について学ぶ機会はほとんどありません。最新的话题を提供し、最新医療に興味を持って頂くことを目的としました。アンケート結果では「やや難しかった」「難しかった」との回答が46.9%と多くありましたが、一般検査研究班では基本をベースにしつつ、時折は最新の知見についても情報提供をしていきたいと考えます。</p>			
参加者	総数：97名（会員 66名、県外会員 30名、非会員 1名、賛助会員 0名、学生 0名、その他 0名）			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 4 年 2 月 27 日 報告者：長嶋 和子

行事種別	研究会	行事番号	210015133
開催日	令和 4 年 2 月 12 日 (土) ~25 日 (金)		
時間	開始	00 時 00 分	終了 23 時 59 分
場所	オンデマンド配信		
テーマ	令和 3 年度愛臨技精度管理報告会、AI と歩む医療現場の未来		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司会	藤田医科大学病院 長嶋 和子		
講師	<p>1. 令和 3 年度愛臨技精度管理報告会</p> <p style="text-align: right;">公立西知多総合病院 服部 聡</p> <p style="text-align: right;">JA 愛知厚生連 稲沢厚生病院 蜂須賀 大輔</p> <p style="text-align: right;">日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 野村 勇介</p> <p>2. AI と歩む医療現場の未来</p> <p style="text-align: right;">岐阜大学工学部電気電子・情報工学科</p> <p style="text-align: right;">同人工知能研究推進センター-医学系分野長 原 武史 教授</p>		
内容	<p>講演 1. で、令和 3 年度愛臨技精度管理報告会を行いました。尿定性検査において同一の結果でも測定機器の半定量値の範囲によって判定が A 判定と B 判定に分かれてしまい、特にその部分について説明しました。異論や更に説明を求める声は聞かれませんでしたので理解いただけたものと思います。フォトサーベイに関しては写真を提示しながら判断の根拠を説明しました。アンケート結果でも好評でした。</p> <p>講演 2. は AI について講演をして頂きました。一般検査領域の話ではありませんでしたが、精度管理報告会は他分野の会員も比較的多く参加することを考えてこの企画としました。事前に会員に質問を貰い、その回答を交えながら講演して頂きました。現在 AI がどの程度医療に貢献しているのか、未来展望はどうなっているのか、そもそも AI には何が出来て何が出来ないのか等を講演頂きました。参加者からは AI と上手に共存しながら技師がやれることを見極めることが必要だという感想を頂きました。理系分野の講演でやや難しい部分もありましたが、多くの方に興味を持って視聴して頂きました。</p>		
参加者	総数：121 名（会員 78 名、県外会員 41 名、非会員 2 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）		
共催、後援など	なし		